

平成29年度病院医学教育研究助成成果報告書

報告年月日	平成30年4月2日
研究・研修課題名	呼吸ケア指導士（初級）資格更新 呼吸ケア指導士（上級）資格取得のための研修補助
研究・研修組織名（所属）	リハビリテーション部
研究・研修責任者名（所属）	原祐樹
共同研究・研修実施者名（所属）	なし

目的及び方法、成果の内容

①目 的

呼吸ケア指導士は日本呼吸器ケア・リハビリテーション学会が、地域において指導的な役割の人材を支援していく同学会の認定資格である。これは認定資格取得後5年毎の資格更新を義務づけられている。

本研修者は上記の資格を有しており、資格更新に必要な単位および、上級資格取得に必要な単位を学術大会での出席により取得することを目的とした。

②方 法

第4回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会中四国支部学術大会に出席し呼吸ケア指導士認定単位を10単位取得し、第4回呼吸ケア指導スキルアップセミナー出席にて10単位取得、翌日の第27回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会出席にて15単位ポイント取得した。

③成 果

第4回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会中四国支部学術大会に出席し、呼吸ケア指導士認定単位を10単位取得した。教育講演として、「急性呼吸不全における呼吸リハビリテーションと早期離床」、「愛媛県立中央病院集中治療室での取り組み」、「間質性肺炎の包括マネージメント」、「集中治療における早期リハビリテーションとしてのエキスパートコンセンサス」、「フレイルと高齢者肺炎」や、シンポジウムとして「在宅に向けての呼吸不全患者に対するケアとリハビリテーション」を拝聴した。

同年集中治療医学会から発表された早期リハビリテーションにたいするエキスパートコンセンサスを元に集中治療下でのリハビリテーションの考え方や進め方を学習することができ、ICUでの半日専従業務するに当たり非常に有効な情報と今後の進め方について学習することができた。

高齢者個弱（フレイル）における、医療介護関連肺炎（NHCAP）患者の考え方について学習でき、元々の虚弱状態に肺炎を合併することで異化亢進が進み病態の悪化が進みやすく予後は悪く、フレイルになっている患者のスクリーニングを病態悪化予防策としての栄養管理と運動療法の取り組みについて学習することができた。

第4回呼吸ケア指導スキルアップセミナー出席し、呼吸ケア指導士認定単位を10単位取得した。慢性呼吸器疾患における最新の治療トピックスを拝聴し、COPDの最新治療としてCOPDガイドラインの内容からCOPDの治療方針などを確認することができた。Global Initiative for Chronic Obstructive Lung Disease (GOLD) 2017年ステートメントにおける薬物、運動療法の話題から、包括的に治療を行う事の必要背について講義頂き学習できた。

間質性肺炎の最新治療として、昨年と同様に東邦大学の「Toho Rehabilitation Interstitial Pneumonia Study : TRIP study」の概要を聴講し、入院中の実際の対応方法や、介入患者における効果について学習することができた。2泊3日の入院中に検査と呼吸リハ導入し、週1回12週プロトコルとし実施前後の

効果として 12 週継続後 3 ヶ月ぐらいの効果持続があることを学習することができた。

リハビリテーションとしては COPD が中心であったが四肢筋力が向上すると予後が良いこと、呼吸筋力を強化することで運動耐容能評価である 6 分間歩行が優位に介入群と改善したと報告を拜聴した。

第 27 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会に参加し、呼吸ケア指導士認定単位を 15 単位取得した。呼吸における心身の健康維持として、情動での呼吸状態の変化と、呼吸での気分を和らげる効果や、情緒変化での呼吸促迫になる状況について学習することができた。いずれの呼吸疾患においても運動耐久性の向上だけで無く、いかに日中の身体活動時間を保つかで予後が変わる事が多く方向されており、リハビリだけで無く呼吸器疾患のある患者さんの 1 日の生活のリズムを整えていく事の重要性が学習することができた。